

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2690500018
法人名	医療法人 三幸会
事業所名	グループホーム ケアサポートセンター吉祥院
所在地	〒601-8339 京都市南区吉祥院里ノ内町71-1 (電話) 075-603-3602

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成21年7月27日	評価確定日	平成21年9月18日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 8 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	7.91 人

(2)建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有()	〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	〇有(30万 円) 無	有りの場合 償却の有無	なし	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	750 円	おやつ	150 円
	または 1日あたり	円		

(4)利用者の概要(6 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.9 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	しらすクリニック、医療法人同仁会、京都九条病院、ひらつか歯科医院
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都市南部の吉祥院地域で住宅街のなかに新築された洋風建物である。隣が大家さんの昔からの銭湯で、地域の人が毎日多数利用されている。近くには大きなスーパーや天満宮があり、町中の暮らしができる立地である。地域性もあり、隣近所との親しいつきあいという関係は不十分であるが、住民の関心は高い。運営推進会議には行政からの参加があり、事業所としてもフランクに情報を出し、意見交換をしている。家族も面会が多く、意見も出されている。小規模多機能型居宅介護事業所が併設されており、計28人の職員はすべて兼任であり、どちらの事業所に勤務するかは毎日変更している。またパート職員は職員会議や研修には参加していないこともあり、職員集団としての理念の共有化、利用者への対応と馴染みの関係づくり、認知症の考え方、グループホーム内の雰囲気や生活づくりについて、共通の基盤が未熟である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価票は管理者とケアマネジャーがまとめている。職員会議や運営推進会議で評価の意義を説明し、評価の結果をもとに職員や地域の人とともに改善を行う予定である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>要綱はないものの、南区福祉部福祉介護課長、地域包括支援センター職員、家族等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。事業所からは情報の報告をし、種々な意見を出してもらっている。メンバーから積極的な活発な意見が出されており、もっと地域に知ってもらってはというアドバイスをもらっている。欠席者にも報告書を送付している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族は運営推進会議で、いろいろな意見を言っている。またクリスマス会、ひな祭り等の行事の際に招待して、家族の参加が3~4家族あり、その際に家族同士の交流ができている。事故には気をつけてほしい、職員の申し送りが不十分等、家族からは忌憚のない意見があり、対応している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>大家さんが地域で長年銭湯を経営してきた人で、地域からの受け入れはスムーズである。開設前の説明会をおこない、内覧会には150人くらいの方が訪れた。その後も地域住民の見学を兼ねた来訪などもあった。町内会に加入し、回覧板がまわってくる。近くの天満宮のお祭りや里ノ内町の地藏盆には利用者とともに参加している。利用者と一緒に銭湯を利用したいと予定している。広報誌を町内会に配布している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえて、当事業所の理念は「一人ひとりがその人らしく」を定め、パンフレットに記載し、事業所の業務を執行している。これは開設にあたり、管理者が作成したもので、今後は職員とも話し合っていく予定である。利用者や家族にはパンフレットをもとに説明し、理解をはかっている。運営推進会議においても説明している。ホーム内に掲示することが期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者としては理念の浸透をはかるべく、日常の業務や会議において話し合いを繰り返している。利用者本位のケアになるように、職員側の都合を押し付けないように、常に振り返っている。職員も理念を自分の言葉で語っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	大家さんが地域で長年銭湯を経営してきた人で、地域からの受け入れはスムーズである。開設前の説明会をおこない、内覧会には150人くらいの人々が訪れた。その後も地域住民の見学を兼ねた来訪などもあった。町内会に加入し、回覧板がまわってくる。近くの天満宮のお祭りや里ノ内町の地藏盆には利用者とともに参加している。利用者と一緒に銭湯を利用したいと予定している。広報誌を町内会に配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が第1回目の受審である。今回の自己評価票は管理者とケアマネジャーがまとめている。職員会議や運営推進会議で評価の意義を説明し、評価の結果をもとに職員や地域の人とともに改善を行う予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	要綱はないものの、南区福祉部福祉介護課長、地域包括支援センター職員、家族等がメンバーとなり、隔月に開催され、記録が残されている。事業所からは情報の報告をし、種々な意見を出している。メンバーから積極的な活発な意見が出されており、もっと地域に知ってもらってはというアドバイスももらっている。欠席者にも報告書を送付している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南区介護サービス事業者連絡会に参加し、そのなかの事業所種別の会議で種々の情報交換をしている。すこやかセンター主催の認知症サポーター研修を、管理者等が講師となり、実施する予定である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は多く、多い人は毎日、少ない人でも月に2、3回来訪されるので、そのつど、情報交換できている。職員異動もお伝えしている。写真が一杯掲載された広報誌を家族に郵送し、献立表も家族に見せている。利用者の写真は希望があれば差し上げている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は運営推進会議で、いろいろな意見を言っている。またクリスマス会、ひな祭り等の行事の際に招待して、家族の参加が3～4家族あり、その際に家族同士の交流ができてい。事故には気をつけてほしい、職員の申し送りが不十分等、家族からは忌憚のない意見があり、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係の構築のために、法人として異動はしてほしくないという希望を出しているが、法人として現在地域密着型サービス事業所の拡大が続いており、異動がしかたのない面もある。当事業所の職員は新たに雇用しており、なるべく続けて働いてほしいという思いからシフトや休日の希望を全面的に受け入れている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画があり、資料や報告書など実績が残されている。外部研修は職員会議等で伝達研修が実施されている。グループホームのあり方、センター方式、バリデーション、看護、脱水症状、食中毒、ターミナルケア、リスクマネジメント、虐待等々のテーマが受講されており、全国フォーラムへの参加もしている。内部研修では新人研修もふくめて実施されている。資格取得についても支援が手厚い。職員個人の目標設定は今後に予定されている。パート職員への研修が望まれる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時に管理者がグループホーム十四軒町、グループホーム醍醐の家ほっこり、小規模多機能型居宅介護事業所では丹波橋の家、上総、松原のぞみの郷等を職員とともに見学している。またグループホームみやまには職員が見学研修に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの場合利用者本人が見学に来ているが、家族だけの場合もある。ためし利用はしていない。利用者はなぜこの場所にいるのか、わからなくて出口を求めてさまようこともある。好きなドライブに連れ出したり、小規模多機能型居宅介護事業所の送迎の車に乗ってもらったりしている。馴染んでもらうために、職員を固定し、家族に訪ねてもらったり、家族に電話をかけたしている。利用者の好きなことをしてもらうことが大事だと考えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	グループホームという擬似家族として毎日の生活をつくることを目指しているが、それは安易になれなくなるのではなく、長い人生を生きてきた高齢者への尊敬の気持ちは失ってはいけないと管理者は考えているが、利用者介護される一方の位置づけをしている職員がいるように見受けられる。	○	グループホームは利用者と職員とがともに毎日の生活をつくっていくところであり、そのなかで利用者本位に、利用者が生きがいをもって暮らしていけるようにすることが望まれる。毎日のくらしは職員の業務中心に進めることではないという点の改善が求められる。
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用の最初にはケアマネジャーが利用者宅を訪問面接し、種々の情報を聴取し、記録に残している。利用者の生活歴は家族からの情報も含めてできるだけ詳細に把握しようと努めている。利用者の趣味・嗜好も聞き取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者には担当職員を決めており、ケアマネジャーがアセスメントを行い、ケアマネジャーとも相談して担当職員が介護計画を作成し、他の職員に示している。	○	介護計画は、一人ひとりの利用者の個性が少なく、聞き取った生活歴や趣味・嗜好を生かした個別で具体的なものにすることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の介護の実施記録は、実施した際の観察もふくめて、ていねいに詳細に支援経過に書かれているが、介護計画の項目に沿ったものではない。モニタリングは区分変更の際にはおこなっている。	○	支援経過は介護計画の項目にそって、必要なことだけを記録し、その結果をもとに介護計画のモニタリングを実施し、記録に残すことが望まれる。介護計画を見直す際には、再アセスメントを実施すること、日常的にはカンファレンス会議を実施し、その記録を残すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性と生かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理容や美容は毎月訪問美容があり、利用者のカット、パーマ、カラー等を実施している。地域の図書館に利用者を同行し、本を借りる支援をしている。法人内の地域密着型サービス事業所が毎月連絡会をもち、情報交換や研修などを実施している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	重度化対応や終末期ケア対応、また医療連携の話し合いのなかで、利用者の主治医は当事業所の協力医療機関に変更している。それまでの利用者の主治医からはサマリーを入手し、医師につないでいる。認知症専門医については法人の病院の医師と連携している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所としての「重度化対応・終末期ケア対応指針」を作成している。この方針について家族には説明しているが、終末期の迎え方について、意向を明確にしている家族は少ない。職員との話し合いもまだ十分ではない。主治医や訪問看護ステーションとの連携はできている。	○	指針を基に、職員が十分話し合い、意思の共有化をすること、ターミナルケアマニュアルを作成し、職員研修を十分行うこと、利用者や家族の意向確認は丁寧に行うとともに、家族の協力が必要なことの説明が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室は鍵がかかけられるようになっており、自分でかける利用者もいる。トイレも鍵がかかけられる。トイレ誘導等の声かけは十分注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は大体6時くらいから起床し、8時くらいにはみんな起きているが、朝食は起きた人から食べている。夜は8時くらいから自分の部屋に引き上げて就寝している。眠れないと出てくる利用者とはゆっくり話をしたりしている。夏らしい和服を着て、帯をきちっと締めている利用者など、その人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は3人の職員の食事委員が1週間分くらいをたて、近くのスーパーに注文して食材を配達してもらっている。足りない分などは利用者と一緒に買い物に行っている。調理や後片付けはほとんど職員がしている。	○	献立をたてるときには利用者の希望を引き出すような工夫をすること、野菜を切ったり、豆の皮をむいたり、盛り付けや食卓を拭いたり、お箸を配ったり、後片付けをしたりなど、利用者の力を生かして支援しながら、利用者と一緒に行動することが望まれる。また食事は利用者の大きな楽しみなので、食卓に花を飾ったり、静かな音楽を流したりし、職員も一緒に食べながら会話が弾むことが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	お風呂は家庭風呂と同じような浴室で窓が大きく明るい。週2回を目標にしているが、毎日でも希望があれば支援している。マンツーマンの同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食材の買い物、毎朝階下に降りて新聞を取り込む、雑巾を縫う、自分の部屋だけでなく共用空間も掃除するなどの役割を利用者は果たしている。プランターで育てている野菜の世話は利用者の楽しみである。民謡の好きな利用者を区社協で行われている民謡サークルに同行する予定にしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの天満宮へ散歩し、隣の保育園児の様子をみることは利用者の楽しみなので、毎日でも支援したいと思っているが、なかなかできていない。近くをドライブしたり、小規模多機能型居宅介護事業所の送迎の車に同乗して一周してくるなどに取り組んでいる。嵐山や京都駅などへのドライブ、將軍塚への紅葉狩りなど、季節のお出かけをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からの玄関ドア、エレベーター、2階の踊り場からグループホームへのドア、廊下の突き当たりの非常階段に通じるドアなど、すべてのドアが施錠、あるいは電子錠になっている。職員がいる時間帯に利用者が下へ降りてしまったことがあり、また転倒などの事故も職員が複数いるにもかかわらず発生していることなどがあり、まだまだ職員の力量不足があるので、こういった状況になっている。	○	認知症高齢者を閉じ込めることの大きな弊害を考え、職員が十分話しあうことによって、少しの時間帯でも開錠することを始めたりすることが求められる。グループホームの玄関ドアなどは鈴をつけることも工夫のひとつである。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、感知器、通報機、スプリンクラー、防火管理者などが設置されており、消防計画が立てられている。年2回の避難訓練は夜間想定も含めて実施されている。備蓄を準備することと、災害についての地域との連携が今後期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量と、注意の必要な利用者の水分摂取量は記録に残されている。毎日の献立のカロリー値や栄養バランスについての点検記録がない。	○	毎日の献立のカロリー値や栄養バランスについて、法人の管理栄養士などに点検してもらい、記録に残しておくことが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームは2階になっており、中央に長い廊下が走り、両側に居室、居間兼食堂、浴室などが並んでいる。居間兼食堂は広々としており、大きな窓に向かって、ソファが置かれ、観葉植物の鉢が並んでいる。台所はオープンキッチンになっており、調理の様子が見え、おいしいにおいが流れてくる。掛け時計が利用者の目線にあわせて低い位置にかけられている。	○	ホーム内が全体として少し殺風景に見える。居間兼食堂や長い廊下の壁などに、名画や季節感のあふれた写真、利用者の書や絵などをかけたり、低い整理棚の上に花を生けたりして、室内をやわらかい雰囲気にするのが望まれる。居室は同じ色のドアが並んでいるので、きれいなれんを下げたりすることも考えられる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はすべて畳の和室になっており、そこに布団を敷いている人やベッドを置いている人がいる。窓が大きく切っており、明るい部屋である。クローゼットは備え付けになっており、利用者は整理タンス、仏壇、昔ながらの鏡台などを持ち込み、自分なりの暮らしをつくっている。仏壇には毎日灯を入れ、水やお佛飯をあげている。部屋にはぬいぐるみや家族の写真を飾っている。		